

令和2年度 学校評価報告

草加市立青柳中学校
(令和3年2月1日作成)

1 学校教育目標 自ら考え実践する生徒（知） 心豊かで思いやりのある生徒（特） 健康でたくましい生徒（体）	
2 重点目標・努力目標 (1) 規律ある生活 (2) 確かな学力 (3) 健康・体力 (4) 安全・安心な生活	3 前年度の成果と課題 成果 ○道徳の時間は学年職員全員が同じ項目をローテーションで全クラス同じ指導過程で授業を行った。 課題 ●学力向上に向けて、授業改善と家庭学習の効果的な取り組みの検討が必要がある。

4 評価表 ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	<ul style="list-style-type: none"> 学校経営目標、方針 校務分掌組織 適所への適材配置 職員会議等の運営 予算の執行・決算、監査等 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○職員会議等で情報の共有を図ることができた。 ○適切な職員配置がなされていた。 ○会計事務の統一化が進んだ。
	②研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> 研究組織、計画、実施 校内研修の推進 授業改善への取組 校外研修会への参加 人材育成 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○教科間の授業見学やB訪問を通して授業改善に取り組んだ。 ●校内研修の組織・計画・実施が遅れた。
	③保健管理・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> 保健計画、安全計画 環境衛生の管理 健康観察、安全点検 緊急事態発生時の対応 危機管理マニュアルの作成・活用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○計画的な避難訓練が実施できた。 ○毎月の安全点検が実施できた。 ○保健指導は適切に行われた。 ○新型コロナ対応で学校独自のマニュアルを作成し、活用した。
	④情報管理・施設設備管理	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報の管理、保護 施設設備の管理と有効利用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○個人情報を徹底的に管理することができた。 ○施設設備の不具合に迅速な対応ができた。
	⑤地域との連携 開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> 学校情報の発信 学校公開の実施 学校運営協議会の推進 地域、校種間連携 PTA活動の活性化 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○学校だより・学年だより・学級通信を通して学校の様子を発信できた。 ○学校運営協議会を定期的実施し、地域や保護者との意見交換ができた。 ●感染症拡大による学校公開中止に変わる情報発信の工夫が必要である。
	⑥幼保小中を一貫した教育	<ul style="list-style-type: none"> 目指す子ども像の共有 15年間を通じたカリキュラムの編成 一貫教育推進のための組織づくり 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校との合同研修会等を中止したが、授業参観の共有が積極的に進んだ。 ●幼保小中一貫を図った授業を推進する。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○学校だより・ホームページ等、教育目標や方針の周知が図られた。 ○臨時休校の遅れを行事の精選・工夫により取り戻すことができた。
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ICT機器を活用し、わかりやすい授業実践を行った。 ○感染症対策を講じながら、授業を進めることができた。 ●主体的・対話的で深い学びの授業改善を行う。
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○各学年でローテーション授業をしたり、定期的に資料分析会を実施したりして授業の実施・改善に努めた。 ○各学年、いのちの教育の推進ができた。
	④特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 生徒会活動 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○感染防止に努めて、学年ミニ体育祭を実施したり、わらわらを利用した生徒会行事を行ったりすることができた。 ●行事の中止・変更に伴う計画の変更課題があった。 ●感染症拡大をふまえ、生徒の自主的な活動に課題が残った。
	⑤「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導内容の充実 指導方法の工夫と改善 評価の工夫 地域の人材・物的資源の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○各学年とも行事の中止・変更に伴い内容を修正・工夫して行うことができた。 ●感染症の不安があり、あまり地域の人材を活用することができなかった。
	⑥生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な生徒指導 問題行動への対処 教育相談、生徒理解 いじめ防止対策 保護者、地域、諸機関との連携 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○情報共有を図り、一つ一つ丁寧に、かつ早急に対応することができた。 ●不登校解消に向けての取り組みの強化が必要である。
	⑦キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 組織的なキャリア教育 指導方法の工夫と改善 啓発的経験の充実 進路情報の収集・活用 職場体験活動 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○感染症対策を行いながら2学年の上級学校学習会や3学年の進路学習会を実施することができた ●1学年の社会体験活動が中止になったことによるキャリア教育の学習の工夫。
	⑧特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画、支援計画 指導方法の工夫と改善 通常学級との交流 諸機関との連携 校内支援体制の整備 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援学級の生徒が交流学級に入ったり、行事に参加したりすることができていた。 ●通常学級で支援が必要な生徒に対し、特別支援学級と連携・協力して、支援をすることが必要である。
	⑨学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画、支援計画の作成 図書館補助員の活用 諸機関との連携 図書館の整備 図書館利用の工夫 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○図書館の整備がしっかりなされており、図書館だよりや掲示物が充実により、生徒の興味・関心が高まった。 ○学級文庫や話題の書籍など充実していて利用者が増えている。
	⑩情報教育	<ul style="list-style-type: none"> 教育計画の作成 校内研修の充実 ICT機器の積極的な活用 情報モラル教育の推進 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ICT機器を効果的に活用する教員が増えた。 ○ICT機器の活用法の研修を計画的に行った。 ○ICT機器を積極的に活用し、校支援やオンラインを使った業務が進み、働き方改革を図れた。
	⑪人権教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の策定 各教科との関連 人権感覚の育成 校内研修の充実 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○人権教育の研修を実施できた。 ●教科との関連について意識的に取り組む必要がある。

草加市立青柳中学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
III 特色ある学校づくり	学力向上	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習の習慣化 家庭学習ノートの活用の仕方 授業規律の徹底 思考力、判断力、表現力を育成する言語活動の充実 1時間毎の授業改善 	B	<p>○県学力調査結果を分析・共有することで、学力向上プランを見直し授業の改善に活かすことができた。</p> <p>○授業規律が定着し、落ち着いた授業が実施できている。</p> <p>●家庭学習ノートの取り組みが曖昧で具体的にどのように取り組めばよいかの提示が必要である。</p>
	生徒による自治的活動	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動の活性化 活発な部活動 道徳教育の推進 いじめ撲滅への取組 居場所作りの支援 研修体制の確立 	B	<p>○いじめ撲滅「ストップイット」の取り組みを行った。</p> <p>○委員会活動の進行を生徒に任せることにより、委員長らの責任感が増した。</p> <p>○部活動に活気があり、成果につながった部活動も多くみられた。</p> <p>●感染症拡大をふまえ生徒の今までの自治的活動が困難になり、実施方法の改善や工夫が必要。</p>

<p>5 総合評価 (学校関係者評価を含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> 青柳中学校感染症対策ガイドラインを教職員で協力して作成したことにより、教職員で対策に対する共通行動を図ることができたとともに、保護者や生徒へ情報を発信し、理解を得ることができた。また、特別教室や職員室にも飛沫感染ボードを教職員が協力して製作し、感染拡大防止の意識を高く保つことができた。 不登校生徒や登校渋りの生徒に対して、さわやか相談員・SC・SSW・関係機関とも協力して対応することができたが、対応が必要な生徒が増えており、さらなる協力・連携を深めていく必要がある。
<p>6 次年度の改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> 学力向上に向けては、授業改善と同時並行で家庭学習の習慣化が必要である。家庭学習の効果的な取り組みの検討が必要である。 幼保小中を一貫した教育では、今年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴い実施できなかった幼保小中研修会を実施するとともに、さらなる連携を深めていく。 不登校生徒解消に向けて、教育相談体制を見直し、教室復帰に向けて様々な方面からアプローチできるようにする。支援室との連携も深めていく。 新学習指導要領の実施に伴い、授業の改善を図るとともに、評価についても研修を深めていく必要がある。 GIGAスクール構想により導入されるタブレットの積極的活用と効果的な活用方法の研修を深めていく必要がある。